

みまぶく 私の逸品 樹皮画 (虹蛇)

標本番号 H0140411
地域 オーストラリア
受入年 1986年

民博 外来研究員

ともなが ゆうご
友永 雄吾

虹蛇（にじへび）にまつわる物語はオーストラリア全土にみられる。この写真の虹蛇は中央アーネムランドの先住民集団に語りつがれる彼らのカントリー（故地）と深く結びついたドリーミング、すなわち神話の一部である。「ウンガリヨド」とよばれる虹蛇は、この地域の人びとの祖先を創造したと伝えられている。ウンガリヨドは変態能力をもち、そのため樹皮画の作者は虹蛇の姿に重ねて祖先を描くことも、特定の土地や動植物の特徴と結びつけることもできる。現にこの写真の虹蛇も魚の尾とカンガルーのような耳をもっている。

こうした樹皮画はおもにユーカリの樹皮を使用し、オーカーという酸化鉄を原料とする赤や黄、粘土でつくる白、木炭からなる黒を基調として描かれる。それがメッセージ性をもつのは、この地域の人びとが神話を共有しており、絵のデザインは先祖から受け継いでいるからである。そのデザインは幾何学模様を施したクロス・ハッチング技法で、現在も彼らにとって秘密性の高い儀礼をおこなう際にもボディ・ペイントとして用いられている。

わたしが調査する南東部の先住民集団ヨルタ・ヨルタでは虹蛇は、大河マレー河の創造神話に登場する「ドゥナトパン」とよばれている。虹蛇は一九九〇年代中頃からTシャツやマグカップにプリントされはじめた。それは、一九世紀初期の強い植

民（さぶ）に晒され言語や親族組織など固有の文化を失った地方の町や都市に住むヨルタ・ヨルタが、一九九三年に制定された先住権原法にもとづき土地の利用権を求める運動を展開するために虹蛇を活用しはじめたこととかわわっている。一九六〇年代、北部や中



部の先住民集団が土地権の回復を国家に求めたときに、その声明文を樹皮画にしたためたことが、その契機となったのだ。こうして虹蛇は、神話の世界から飛びだし、先住民と土地との深いかわりを示すために現在（いま）に蘇（よみがえ）るのである。